

## ②研究内容・計画

### ◆応募先を決めたら

- ・準備は早めに開始し、早めに応募する
- ・募集要項は少なくとも3-4回読み、**要項に正確に従う**
- ・募集要項の記入例・サンプルは、審査側の「こう書いて欲しい」ポイントが表れているのでよく見て参考にする

### ◆申請書類を作成する際に意識すること

- ・どうやったら自分の研究がもっと洗練されたものになるか
- ・審査員は誰か（誰に申請書類を読んでもらうのか）
- ・申請者の研究者としての「プロ意識」が反映されているか
- ・助成の申請理由に個人的事情を持ち込んでいないか
- ・自分が読んでも面白くないものは審査員にとっても面白くない
- ・研究とは単なる個人の業績ではなく、先人の達成してきたことをふまえて成り立つもの
- ・審査員の記憶に焼き付く計画書を書くためのアイデア6原則（頭文字がSUCCESS）
  - ①Simple:単純明快である
  - ②Unexpected:意外性がある
  - ③Concrete:具体的である
  - ④Credible:信頼性がある
  - ⑤Emotional:感情的である
  - ⑥Story:物語性がある

### ◆題のつけかた

- ・タイトルだけで申請書を読む意欲が決まってしまう
- ・タイトルやネーミングに工夫を凝らし、審査員の目にとまるように
- ・**一読して直ちに理解できる**題名→簡潔、且つ申請しようとする研究内容が一目でわかる
- ・必要に応じて副題をつけることも効果的
- ・採択率の高い研究者の題のつけかたを研究する
- ・魅力的なカタカナの単語を含めるのもワザ
- ・どこにでもあるような題、単純な題は避ける
- ・「○○に関する研究」はNG←具体的に何をどこまで達成しようとしているか推察しにくい
- ・研究全体がわかる課題名の例：「○○のための（研究の社会的背景）、新○○による（研究手法…新しさを強調）、○○の開発（何を達成するか）」

## ◆着想に至った経緯や背景

### (1) 先行研究

- ・国内外の研究動向をふまえ、自分の研究がどこに位置するのかを知る
- ・自分の研究内容が国内外の過去の研究とは異なった**独創的な着想に基づくもの**であることを主張する
- ・競合する研究者を意識していることがわかるように：他人の類似研究を参照している点も強調し、競合する研究者名も記す
- ・ただし、他人の参考文献は多用しすぎるとオリジナル性を疑われてしまうため注意
- ・明らかになっている部分とそうでない部分を明示する
- ・先行研究では明らかにされていない部分に対して自分がどのようにアプローチするのかを主張する
- ・類似の先行研究がなければ、①なぜないのか、②なぜ自分は誰もしていない研究ができるのかを述べる
- ・これまでの知見に対して非難はせず、「ここまでは明らかになっている」というような書き方をする

### (2) 動機や経緯

- ・なぜそれに興味があるか、なぜそれを課題と感ずるか
- ・これまでの研究成果に加え、内外の研究者による類似研究も参照する（競合する研究者名も忘れずに）
- ・既に研究が進んでいて、興味深い結果が得られている点があれば、それを強調する

## ◆研究の意義・必要性

- ・遠慮なく語る
- ・**独りよがりでないか**に配慮する
- ・具体的なデータの呈示は好印象
- ・自分がやりたいという意志よりも自分の研究がいかに助成に値するかを**シンプルな言葉で**語る

### (1) 研究テーマの必要性と独創性

- ・先行研究では検討しきれていない問題点を示し、本研究によって何が明らかにされるかを述べる

- ・自分のオリジナルの部分はどこか
- ・新しさは何か、なぜ今までできなかったのか
- ・類似した研究に対し、どこが異なり、どこが新しいか、を強く意識しながら書く  
(可能であればここでも競合研究者名や数値などの具体的データを入れる)
- ・自分の発想と工夫が自分の言葉で表されていることが重要

## (2) 研究テーマの緊急性

- ・その研究をどうしてもやらなければならない理由
- ・なぜ今やらなければいけないのか

## (3) 研究のインパクト

- ・自分の研究テーマが、どのような対象（人々や物事）・方法・研究領域にインパクトを与えるか
- ・目的達成時の学術的価値は何か：学問的な広がり、意義・重要性について説明する
- ・波及効果は何か：学術・社会・産業・環境等何でも、アピールできる波及効果があれば説明する

### ◆研究目的

- ・研究の背景を踏まえつつ、現状では何が問題となっているかを示す
- ・問題解決のための手法や期待される成果を挙げる

### ◆業績

- ・研究業績欄は申請書類の中でも重要
- ・過去の業績が明確に示されていることで、研究に具体性があり今後も期待ができるものとみなされる
- ・**ストーリーがあふれ出るような**書き方を：業績を並べることで、その研究内容を申請者がやらねばならないということを主張する
- ・受賞歴はもちろん、講演、演奏活動、報告書、国際学会での発表も業績になる
- ・たとえ書けるような業績が少ないとしても、**研究業績の欄は必ず埋める**
- ・研究業績欄以外の項目でも業績はアピールできる：研究状況の本文、参考文献、自己評価の欄など
- ・特に参考文献は、申請者に研究者として能力があるかどうかをみる指標になっているので注意

## (1) 申請者の所属組織について

- ・申請者の所属組織が、その研究分野で実績があってリーダーシップを発揮していることをアピールする
- ・所属組織が達成してきた成果について、戦略や具体例を呈示する
- ・所属組織が新しく実績が少ない場合は、所属している研究者個人の実績と組織内の協力体制の円滑さを強調し、その組織が良い結果を出せることをアピールする

## (2) 共同研究者

- ・「この研究代表者と研究分担者でこの体制なら優れた研究ができる」と思わせるように
- ・研究の参加人員について、それが理にかなった人員配置であることを詳細に説明する

### ◆研究計画・方法

- ・計画とは絵空事ではなく、自身の過去を原資として組み立てるもの
- ・まず現時点での研究を細かな段階や作業に「分節化」し、そこに費やした時間や資金を明確にする
- ・「何をやったから何がわかったか」「何をやったから次に何をしたくなったか」を振り返る
- ・研究結果がイメージできるような、具体的な構想を示す
- ・研究計画は**マクロからミクロへロジックを組み立てる**
  - ①研究期間内に明らかにする知見を決定する
  - ②その知見を得るための研究を3～4程度の構成要素に分解する
  - ③それぞれの要素をサブテーマと位置づけ、さらに細かくステップと内容に分解していく
  - ④サブテーマから得られる知見を総合すると、期間内に明らかにする内容になっているように構成する
- ・スケジュールを書く際は、それぞれのタスクの為の目標期日を設定する（XX月には何をやる—というふうに具体的に）
- ・一つの研究課題に対し成果は一つ：年や月で達成目標を段階化する場合、それぞれが最終目標に連動するように考える
- ・計画通りいかなかった場合の対応も示す：最善の修正策、そのために必要なもの、得られる成果について、関連した研究に流し込めるような伏線を張る
- ・自分の学会発表や発表済み論文、写真等を挙げて、既にその研究計画が一部進んでいることを示す
- ・個々の方法の記述は、5W1Hをふまえて**具体的に明確に書く**  
悪い例：「○○図書館で文献調査する」「○○にヒアリングする」
- ・説明に飛躍や断絶をなくし、審査員を納得させる

### ◆人権保護とコンプライアンスへの対応

- ・「個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、患者から提供を受けた試料の使用、動物実験等」の法令等に基づく手続きが必要な場合は、その対策や措置を明記
- ・研究協力者の選定方法
- ・インフォームド・コンセントの内容

- ・研究協力者の合意の取り方
- ・研究協力者が辞退する権利
- ・データの管理・保存方法
- ・研究協力者へのデータのフィードバック方法
- ・研究機関内外の情報委員会や倫理委員会における審査方法
- ・データ及び研究成果の公開

## ◆期待される成果

- ・その研究から見える**明確な展望**を示す
- ・研究結果のフィードバックと評価について
- ・社会的意義
- ・波及効果

## ◆内容の最終チェック

- ・問題は明確か？
- ・調査に値する研究か、既存のよくある申請になってはいないか？
- ・研究結果として有益なものがもたらされるような重要な研究か？
- ・その資金は問題解決をするために必要なものか？
- ・「望み」ではなく実質的・具体的な考えを持ち合わせているか？
- ・期待される効果は明らかになっているか？
- ・研究・出版の十分な経歴があるか？